

三村真弓先生との思い出

工藤千晶

(美作大学)

Memories with Professor Mayumi Mimura

Chiaki KUDO

三村先生、ご退職おめでとうございます。私が三村先生をはじめとお見かけしたのは、広島大学教育学部の音楽棟で行われた在学生のためのオリエンテーションでした。そのオリエンテーションで、「前に勤めていた佐賀大学ではお母さんと呼ばれていました」というお言葉から始まった三村先生の着任のご挨拶を私は今でもはっきりと覚えています。この学部での出会いから博士課程後期、そして現在まで、三村先生にはお世話になっております。

私が博士課程前期に在籍していた当時、三村先生と吉富先生のお二人で行われていた音楽教育学ゼミでは、毎週1回ゼミがあり、一人の発表に対してゼミ生全員が質問や意見を述べる形がとられていました。ゼミ生のテーマは多様で、当時院生であった私は、どのような質問や意見を述べればよいのかを必死に考えていました。また、ゼミは学部生から博士課程後期の院生までかなりの人数が所属していたため、毎回何時間もかかる持久戦で、ゼミ生一同朦朧としながら懸命に意見を交わしていたことを今でもよく思い出します。自分の発表の番では、何を指摘されるか、どのような質問をされるか、それに答えることができるのか、といった不安を抱えながら準備していましたが、このようなゼミは、研究を進める原動力となりました。三村先生を中心とした音楽教育学ゼミの結びつきは強く、同級生はもちろん、先輩、後輩の垣根なく、多くの時間を共有することができました。そこで得た結びつきは、今でもかけがえのない財産となっています。

また、三村先生はゼミ生に対して学会発表と論文投稿を積極的に行うように指導をされていました。普通のペースで研究していたら研究職には就けない、だから人の倍の努力をする必要がある、と三村先生は繰り返しおっしゃっておられましたが、そのご指導のおかげで多くのゼミ生が研究職に就くことができたと思っています。

そして、周知のことではありますが、三村先生は広島大学就任直後から研究、教育、演奏など多岐にわたる膨大な仕事を常に抱えておられました。精力的に職務にご尽力される三村先生のお姿を拝見するたびに、お身体を壊されないかと心配していましたが、そのご多忙は、ご退官を迎えるまで一切変わることはありませんでした。三村先生が膨大な仕事に取り組みされるお姿を間近で拝見したことにより、大学教員という職に就くことの覚悟をしたゼミ生も多かったと思います。

最後になりますが、今思い返してみると、私が音楽教育の研究に興味を持つきっかけとなったのは「音楽教育の研究って楽しいよ」という三村先生がおっしゃった一言だったように思います。そしてゼミでおっしゃっていた「歴史は裏切らない」というお言葉は、歴史研究を進める中で、今でもよく思い出します。三村先生、長きにわたってご指導いただきありがとうございました。三村先生のご指導に感謝申し上げるとともに、先生のご多幸をお祈り申し上げます。